

令和7年度 授業改善推進プラン 社会科（大森第三中学校）

＜昨年度の授業改善推進プランの検証＞

★取り組みにおける成果と課題

3年生: 卒業生	○視聴覚教材を視聴したり、ワークシートに取り組むことで学習事項の内容の確認をし、理解を深めることができた。 ○受検期に集中的に復習課題に取り組む機会をもち、3年間の学習のまとめを行うことができた。 ○日々の授業での既習事項の振り返り、定期考査に向けた取り組みだけでは、基礎的・基本的な知識や技能の習得に課題がある生徒も居た。
2年生: 現3年生	○基礎・基本の復習を繰り返し、定着の不足していた内容の確認をすることができた。定着が不十分な分野の確認を継続していく。 ○視聴覚教材やワークシートを活用したノートまとめに取り組むことで関心を高めるとともに、理解を深めることができた。 ○長期休業中に復習課題に取り組む機会をもったり、単元のまとめを行うことで、大きなまとまりで学習を振り返ることができた。
1年生: 現2年生	○効果測定で課題となっていた学習内容などの振り返り学習を促した結果、理解を深めることができた。 ○動画のリンクや参考資料をまなびポケットのタイムラインなどで提供したことで、多角的な見方・考え方をもちつづけることができるようにした。 ○学習課題の成果をオクリンプラスなども活用して共有することで、考えを深めるきっかけとすることができた。

＜社会科の内容別結果の分析＞（区・学習効果測定）

内容	1年生	2年生	3年生
地理的分野	○「世界の中の日本」では、目標値を6ポイント上回った。特にSDGsに関して「持続可能」を答える問題については、目標値や全国平均を大きく上回った。 ○「日本国憲法」では、3つの問題のうち「国事行為」と「国民の義務」に関する2問で目標値を下回った。「日本の政治」に関する問題では、すべての問題で目標値に近い、あるいは目標値を上回った。「日本の選挙権年齢の引き下げ」について、資料をもとに記述で答える問題では、目標値を13ポイント近く下回り、すべての問題の中で最も正答率が低い問題の一つだった。	○「世界の姿」では校内平均正答率が目標値を下回った。 ○「日本の姿」は目標値を大きく下回った。「日本の位置や範囲」に関する設問では目標値を上回ったが、「東京の対極点」に関する設問では目標値を13ポイント下回った。 ○「世界各地の人々の生活と環境」と「世界の諸地域」では、ほぼ目標値と同等の結果であった。「高山気候」や「モノカルチャー経済」に関する設問では目標値を上回ったが、「ヒンドゥー教」や「カナダの貿易」に関する設問は、目標値を大きく下回った。	○「日本の地域的特色と地域区分」における日本の人口に関する問題は、目標値を16ポイント以上上回るなど、目標値を上回っている問題も多かった。ただし、日本の交通の様子に関する問題は目標値より16ポイント程度下回るなど、正答率に大きな幅がみられた。
歴史的分野	○縄文時代から平安時代の内容では、「平安時代の文化」に関する設問で校内平均正答率が目標値を10ポイント程度下回った。 ○明治時代から昭和時代の内容では、「自由民権運動」を答える問題で校内正答率が目標値を17ポイント下回った。 ○鎌倉時代・室町時代に関する問題では、目標値を大きく下回る問題はなかった。特に鎌倉時代の御恩と奉公について資料をもとに答える問題では、目標値を8ポイント近く上回った。	○「縄文～古墳時代」「飛鳥～平安時代」「中世の日本」のすべての領域で校内平均正答率が目標値を下回った。 ○特に「飛鳥～平安時代」では、3問中2問で目標値を大きく下回った。中でも、「藤原道長の政治」に関する記述式問題の校内正答率は今回の測定問題の中で最も低い数値だった。 ○「中世の日本」では、「徳政令」「戦国大名の支配」の設問で大きく目標値を下回った。	○明治時代の領域では、校内正答率が目標値を5ポイント下回った。 ○戊辰戦争について記述する、記述解答の問題では、校内正答率が目標値を32ポイント程度下回り、正答率が非常に低かった。

＜社会科の観点別結果の分析＞（区・学習効果測定）

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	○観点別の校内平均正答率が目標値を3ポイント下回ったが、目標値に近かった。 ○「日本国憲法」に関する設問と、「明治時代～昭和時代」に関する設問で校内正答率が目標値を下回っている問題が多く、内容の理解に課題がある。	○観点別の校内平均正答率が目標値を4ポイント下回った。 ○「日本の位置・範囲」「モノカルチャー経済」「アフリジニ」に関する設問では、目標値をく上回ったが、「ヒンドゥー教」「飛鳥文化」「徳政令」についての設問では目標値を大きく下回った。	○観点別の校内平均正答率が目標値を6ポイント下回った。特に、2年次の歴史的分野の正答率が大きく下回った。 ○戊辰戦争についての記述問題は、目標値よりも25ポイント程度下回っており、知識の定着と活用に大きな課題がみられる。
思考・判断・表現	○観点別の校内平均正答率が目標値を1ポイント下回ったが、目標値にかなり近かった。 ○「思考・判断・表現」の観点に関連する問題の中でも特に、複数の資料をもとに考察し表現する設問で校内正答率が大きく目標値を下回った。資料からポイントを読みとり、判断・表現することに課題がみられる。	○観点別の校内平均正答率が目標値を2ポイント下回ったが、目標値に近く、区の平均正答率は上回った。 ○「高山気候」「弥生時代の様子」「奈良時代から室町時代の文化」についての設問では目標値を上回ったが、記述式の「藤原道長の政治」や、資料から読みとって判断する「東京の対極点」「戦国大名の支配」の問題で大きく目標値を下回った。	○思考・判断・表現に関する問題について、目標値に対し、校内平均正答率はおおむね同程度であった。 ○「思考・判断・表現」の観点に関する選択問題については、おおむね同程度もしくは上回っているものの、複数の資料をもとに考察し表現する設問で校内正答率が大きく目標値を下回った。

＜社会科の課題と具体的な授業の改善策＞

学年	課 題	具体的な授業改善策
1年	○特定の分野の学習事項の知識の確実な理解に課題がみられる。また、複数の資料を読み取ったり考えた内容を適切に表現しようとする姿勢にも課題がある。	○学習内容の確実な定着のため、今回の効果測定で理解が不足している内容などを中心に振り返り学習の時間や機会を設ける。また、既習事項の確認も繰り返し行っていく。 ○複数の資料を読み取って考察を深め、表現していく活動を取り入れる。授業や家庭学習の課題などでタブレットも活用し、個別に資料を読み取り記述する問題に取り組ませ評価するなど工夫をする。
2年	○知識・技能に関する問題の正答率が思考・判断・表現の問題よりも低く、基礎的・基本的な知識の確実な定着に課題が見られる。 ○記述式での解答や複数の資料を読み取って答える問題で正答率が低い傾向が見られる。	○基礎的・基本的な知識の定着のため、今回の効果測定で理解が不足している内容などを中心に振り返り学習をする場面を設定する。また、既習事項の確認も繰り返し行っていく。 ○資料を読み取らせる機会を増やし、正しく資料を読み取る力を伸ばしていく。また、複数の資料や材料をもとに考えを深め、まとめる活動を設定するようにし、考えるポイントを明確に示すことで論理的な思考力を高める機会としていく。
3年	○全般的な知識の定着に課題が見られる。 ○複数の資料を読み取り、関連付けて考察する問題や、記述問題が不得意な傾向がある。 ○記述問題の無回答の割合が約3割程度であり、表現しようとする姿勢にも課題がみられる。	○学習内容の定着のために、1,2年次の既習事項の確認を様々な機会に行っていく。重要な語句については、内容の確認と共に正確に書き表す習慣をつけさせていく。 ○複数の資料を読みとって考察を深める活動を積極的に取り入れる。また机間指導や定期的なノートチェックを通じて記述する習慣づけを徹底し、記述問題への心理的な抵抗感を減らしていく。 ○入試問題や定期考査の問題などの発展的な問題にも取り組みせながら、丁寧に解説する機会を設けていく。